



令和8年度地域にぎわいポイント 付与事業事例集



目次

- 大沢原町会
- 三鷹市青少年対策第七地区委員会
- 三鷹市交通安全対策第六地区委員会
- 特定非営利活動法人子育てコンビニ
- 丸池の里わくわく村

【大沢原町会】

実施内容

【地域ポスターコンテストボランティア(7~3月)】

- 町会の掲示板活用イベントとして、おおさわ学園の小中学生が「おおさわ」をテーマに描いた絵を町会のPR用ポスターとして掲示板に展示掲載。返却前には、大沢地域の3つの公会堂にて巡回展も実施した。地域交流や子ども達の居場所作りを目的に行った。

【放水訓練参加ボランティア(8月)】

- 夏に天文台の敷地をお借りして放水訓練を実施。可搬ポンプの事前整備や当日の放水訓練時の操作、来場者への説明等を担ってくれる人材の育成と、ボランティア参加をきっかけに、自助・共助の精神を育て、地域防災の人員確保を目的に行った。

【歳末特別警戒パトロール、見守りボランティア(12月)】

- 年末の夜間特別警戒パトロールを実施。大人が見守りつつ、子どもを中心に町会内を3つのエリアに分け、声掛け巡回パトロールを実施した。地域の防犯・防災意識を高め、自助・共助の精神を養い、地域の担い手を増やすことを目的に行った。

【炊き出し訓練ボランティア(2月実施予定)】

- 年度末に大沢原地区公会堂にて炊き出し訓練を実施。災害時の道具の使用方法や炊き出しの手順を学んでもらい、配給の手順などを体験する。自助・共助の精神を育て、地域防災の人員確保を目的に行った。

●地域ポスターコンテスト



●放水訓練



●子ども納涼まつり



●歳末特別警戒パトロール

未実施事業

【実施するも多忙によりポイント付与できず】

- 町内美化活動(6月)・子ども納涼まつりボランティア(7月)・天文台道路緑地帯の整備と植栽(9月)

【計画するも実施に至らず】

- 安全・安心パトロール新規募集(毎月)・町内資源物回収新規ボランティア(毎月)

ポイント導入の効果

【効果があった事項】

- 実施事業への取り組み方の意識、積極性の向上、他事業への興味喚起になった。
- 町会としての活動理解と運営の取り組み姿勢への評価につながった。

感想や来年度への抱負

- 忙しいイベントほど、ポイント付与作業を考えている余裕がなく、町会内でも作業内容の情報共有不足もあり活用しきれなかった。次回は付与作業等の事前確認を行ったうえで当日に臨みたい。
- 名簿数と付与数のズレが見られたため、受付名簿にみたポ欄を加え、付与を確認した際に委員がチェックするなどの対応を検討。
- 付与事業であることの事前告知不足を解消し、より活用していきたい。

課題や今後に向けたアイデア等

【課題】

- ポイント付与時の手間が多い、手書きでの名簿取得が大変、屋外での実施時に煩雑、定時報告の整合性・不備など再確認が難しい、実施側の手間が多く大変というイメージがある(実際手間が多い)

【今後に向けたアイデア】

- ポイント付与状況をリアルタイムで確認できるよう、名簿のデジタル化(QR取得時に名簿取得)が可能になるといい。また、絵で見るポイント付与マニュアルがあれば、スマホ操作が不慣れな方も安心して利用できる。

【三鷹市青少年対策第七地区委員会】

実施内容

【七小おにわクラブ】

- ・学校内の環境美化活動としてこれまで長年続けてきた「花いっぱい運動」の発展形として、道路に面した七小校庭東側の「なないろひろば」を地域主体の花壇づくりの場として学校から預かり、児童や保護者も参加できる仕組みにし、今年度から取り組むことになった。
- ・年間5回開催、花壇のデザインからスタートし、季節に合わせた花苗を植栽した。
- ・11月中旬に予定されていた学校の開校70周年記念式典に合わせて彩りを添えられるようにした。



ポイント導入の効果

【効果があった事項】

- ・参加申し込みの時点ではポイント付与を伝えていなかったため、純粹にガーデニングに興味のある方が参加してくれて、ポイント付与があることを喜んでくれた。
- ・青少対の活動は事業費は市からの予算があるものの、活動はボランティアのため、イベントの準備やイベント以外のメンテナンスにポイントを付与でき、労いにつながった。

課題や今後に向けたアイデア等

【課題】

- ・青少対の活動は年度内に次年度の活動計画を立てるので、ポイントの申請期間とズレがあり、ポイント付与を計画の中に入れることが難しい。

【今後に向けたアイデア】

- ・町会やNPOなど、多様な人財とのつながりにもこの事業を生かしていけるのではないかと考えています。

感想や来年度への抱負

作業中、横を通りかかった地域の方から「最近花壇がキレイになって通るのが楽しみなったのよ」と声をかけていただいた。学校内の花壇を整備することで、子どもたちにとっても、道行く地域の人々にとっても憩いの場となる。楽しく作業をすることで豊かなコミュニティが生まれてくれたらいいな、と思っている。

【三鷹市交通安全対策第六地区委員会】

実施内容

【六地区親子運動会】

- 第六小学校区域の交通安全に対する意識向上と地域が一体となって楽しむ機会をつくることを目的とし、親子で楽しむ運動会を地域の方やPTAの方と一緒に開催した。
- 親子での二人三脚やパン食い競争などを実施し、景品に反射材などの交通安全グッズを配布した。



パン食い競争



二人三脚



ボランティアのみなさんで景品の袋詰め

ポイント導入の効果

【効果があった事項】

- 今回の六地区親子運動会は第51回と長くつづいている活動で、今までは無償ボランティアの方々の力に支えられてきた。その方々に少しでも還元できることが運営側としてとても気持ちが楽になった。
- ボランティアに参加された方がポイントをもらって嬉しそうにしている姿、また来年もお手伝いしますと言ってくださる方もいた。

課題や今後に向けたアイデア等

【課題】

- アプリでのポイント付与が対象のため、ポイントカードの方に付与することが出来なかった。

【今後に向けたアイデア】

- 今回は「六地区親子運動会」の活動のみ対象としたが、他のイベントでも活用していきたい。

感想や来年度への抱負

・みたか地域ポイントを導入することで、これまでも運営を支えていただいたPTAや保護者の方などに少しでも形として感謝を返すことができるようになったので、導入して本当によかったです。
来年度以降も、にぎわいポイント付与申請をし、交通対としての活動をもっと充実していきたいよう工夫をしていきたい。

【特定非営利活動法人 子育てコンビニ】

実施内容

【コンビニひろば】

2018年より毎月第2月曜・第4木曜、10時～12時まで開催している。子育て中のママ同士のおしゃべり情報交換など居場所作りを行っている。平均4・5組の親子の参加があり、12月25日にはミニクリスマス会を開催。寝相アートや足形ツリーの製作などを行い、12組の親子が集まった。スタッフは参加者同士の交流の促進や全体の進行、安全管理を行った。

【ママのリフレッシュプラン～楽しいNaana】

2022年から約4年続けてきている。小さなお子さん連れで参加できる講座付きのランチ会を、今年も、4月、6月、9月、10月、12月に開催し、合計18組の親子が参加。忙しい毎日からちょっと解放されて、のんびりランチを楽しんだ。今年度は0歳、1歳児の親子参加が多く、「家事、育児に追われる毎日なので、ゆっくり食事が出来て幸せでした」との感想を毎回もらう。これも参加者数よりも多くのボランティアスタッフを配置し見守っているお陰かと思う。事故なく開催するためには、やはり多くの方の助けが必要だ。



←コンビニひろばの様子



シエアキッチンNaanaの様子↓→



ポイント導入の効果

【効果があった事項】

- ・ボランティア活動が市に認められているという意識が高くなり、より責任感が生まれた。
- ・みたポを地域のお店で使うことで経済効果があるなどの感想もあった。
- ・他市在住のスタッフからは、もっと他の自治体でもこういった活動が広がるといいという声があった。
- ・ケーキやパン、本、薬局での利用等自分へのご褒美に使った方もいて、ボランティアさんのちょっとした楽しみになっていると感じた。
- ・みたポで緑化センターの三鷹産野菜を購入し、講座やランチに活かしている。
- ・ボランティア希望者の数に特に大きな変化はないが、みたポを出せるということで協力を頼みやすくなり、スタッフの方々のご苦労に、多少でもみたポで報いることが出来たのではないかと、こちら側の心情にもゆとりが生まれた。

感想や来年度への抱負

地域ポイントを活用することで、ボランティアへの参加を誘いやすくなり、これまでボランティアに関心なかった方には、はじめの一步になるのではないかと思います。NPO法人子育てコンビニは、ボランティアベースでの活動を長年続けており、会員は30代から80代と幅が広いです。みたポを上手に活用することで、活動の幅を広げて行ければと考えます。

ポイント導入による課題や今後に向けたアイデア等

【課題】

- ・他の無償ボランティア活動とどのように区別していくのか。

【今後に向けたアイデア】

- ・物価高の折、付与されたポイントを次のイベントの材料の購入にも利用できるのを、提供するものの質を上げることが出来る。多様な参加店が増えると良い。

【丸池の里わくわく村】

実施内容

【丸池わくわくまつりの企画・運営】

- 丸池の里の特性を活かしたイベントを通じ、大人にも子どもにも「丸池の里」をわが故郷と感じてもらうため、2025年11月30日（日）新川丸池公園、勝淵神社境内一体を使って実施。
- 自然に恵まれた水田事業で作られたお米の藁を使っての工作、模擬店（丸池のお米を使った商品を販売）、傾斜等を活かした段ボール遊び、大縄跳びなど体を使った遊びを実施した。
- 未就学児から高齢者まで、来場者約2,000名（運営者、協力者、中学生ボランティアを含む）。
- 様々なチャンネルを通じて呼びかけを行い、前日の準備、当日の管理運営、実施に地域から多数の協力者を得た。終日の協働作業で、「丸池のことを知る」「お互いを知る」の双方に効果があった。
- 協力呼びかけにあたり、みたポ付与について案内をおこなった。



わら細工



どろんこまとはて



段ボールソリ滑り



模擬店

ポイント導入の効果

【効果があった事項】

- 地域でもみたポは浸透しており、ベテランボランティアの方も多く、付与の際にアプリをダウンロードすることからご案内する手間や付与に当たっての混乱が少なくなっている。

課題や今後に向けたアイデア等

【課題】

- 限られた人的リソースでイベントを行う際、ポイント付与のために人手を割くことが負担である。
- 来年は、上限が下がるため、同事業の参加者に同じように付与をすることはできないため、付与対象事業を整理する必要がある。

【今後に向けたアイデア】

- ポイントがボランティア活動の動機づけとなっているか検証し、効果と負担のバランスを検証する必要があるが、「どうですか？」と主催者からは聞きにくい。利用者アンケートなどで取り上げていただき、結果のフィードバックがあるといい。

感想や来年度への抱負

- 来年度はポイント上限が下がるため、今年度と同様の計画ベースでのポイント付与はできないと考えられる。これまでの実績が、ポイントがなくても来る・・・に繋がっていることを願う。
- イベントの当日手伝いに、ではなく、企画運営会議にのみポイントを付与するなど、付与対象の見直しを検討する。